

市指定文化財<彫刻>

あいぜんみょうおうぞう
愛染明王像

指定日 昭和62年12月22日

所在地 菊池市七城町蘇崎(打越)



明王の恐ろしい眼は悪魔を睨み付け、正に衆生しゅじょうを救うための必死の形相である。

愛染明王は、文字通り愛で染めるということだから、家庭円満の仏様である。非常に恐ろしい顔をしているのでそれだけに、家庭を守ることは大変なことである、といえる。

人間は様々な欲望のために家庭を破壊することがある。その一つが狂った愛情で、そうならないようにこの仏様を拝むと家庭円満になり、無病・息災・利福等を授け戴けるといわれている。

明王の蓮台れんたいの下に壺があり、宝瓶ほうべい(法具)付き蓮台という。家庭の中には守らなければならない宝物がたくさんあることを表現している。

この仏様は、打越区の怒留湯氏の先祖が豊後(大分)からこの地へ来た時奉祀ほうしされたと伝えられる。